

— 感染管理認定看護師の役割と活動 —

私の所属する本院総合感染症・感染制御部は、病院長直轄で活動しており、患者やその家族・教職員など当院に関わる全ての人を感染から守ることを使命としています。感染管理認定看護師は其中で中心的な役割を担っています。活動は疫学・微生物学・感染症学などの専門知識に基づき、薬剤耐性菌の検出状況のモニタリングや早期介入、院内・外からの感染症対策コンサルテーション、医療関連感染サーベイランス、院内ラウンドでの感染対策遵守の確認と指導・教育、マニュアル作成など多岐にわたります。また、行政や他施設との連携も重要な活動の一つです。

2019年からはじまった新型コロナウイルス感染症のパンデミックの際には、ウイルスの正体・病状の経過、感染経路・治療法など不明な事が多い中、病院管理者と連携し、行政や他施設の情報を共有しながら、当院での方針や対策を決定し対応してきました。しかし、ここにくるまでには私たちだけではなく、全ての教職員の協力があってこそ乗り切ることができたと思っています。



個人防護具着脱訓練の風景



N95マスクフィッティングテストの風景

今後の活動について

感染リスクを下げるために重要となる手指衛生は、感染対策の基本であり、世界保健機関（World Health Organization : WHO）や米国疾病対策予防センター（Centers for Disease Control and Prevention : CDC）も2000年代に入り手指衛生の重要性を強調・発信し続けています。当院でも以前から手指衛生の取り組みを行っていますが、速乾性手指消毒剤の使用量や遵守率は日本私立大学協会（通称：私大協）の中央値に到達しない状況が続いています。今後は介入方法を変更し、感染管理認定看護師が実際に臨床現場で感染対策リンクドクターやリンクナースとともに直接観察の場面を増やし、現場の教育を行いつつ、正確な手指衛生遵守率を把握したうえで、遵守率の向上や使用量増加につながるよう活動を行っていきます。

今後も新興・再興感染症によるパンデミックが起こる可能性は高いといわれています。その準備と対策のためにも、事業継続計画（Business Continuity Planning : BCP）やマニュアルの見直し、職員の基本的な感染対策の定着が重要となります。また、定期的に新興・再興感染症の発生を想定した院内訓練を行い、今後に備える必要があります。

感染管理認定看護師は大変だと思われることも多いですが、病院全体に関与するため、管理的視点が必要な大変やりのある分野です。少しでも興味があればお声かけください。お待ちしております。